

下北原発地点海域温排水等影響調査

木村 大・沢田 兼造・小田切譲二

発表誌名

昭和55年度下北原発地点海域温排水等影響調査報告書

抄 録

原子力発電所設置以前における，設置予定地前面海域の魚類資源分布状況を把握することを目的とする。

1. サケ稚魚分布調査

5～6月に3回，イカナゴ光力利用敷網により，1調査点10分間点灯し採集した。サケ稚魚は水深の浅い海域で多く入網し，白糠港内では調査点よりも多く，また大型の稚魚が入網した。得られた稚魚は老部川放流魚と思われる。

2. サケ刺網漁獲試験

底刺網漁法により魚種別漁獲量調査を11，12月の2回実施した。12月はサケが多獲され，11月は尾数ではマイワシが，漁獲量ではサケが多かった。

3. 標本船調査

6～1月の期間中5隻に漁業種類，操業海域及び漁獲魚種の記録を依頼した。白糠，小田野沢地区で主体となる漁業種類は，6月サガ，ヒラメ一本釣，7～9月はイカー一本釣，10～12月はマグロー一本釣漁業であるが1月は休漁状態である。

4. 標本調査

6～1月の期間中，多く水揚げされた魚種の体長測定を依頼した。サケの雄は雌よりも出現体長範囲が広い。ヒラメは40cm以下の小型魚が漁獲の大半を占め，7～9月にかけて成長が見られる。11月になると新規群が添加される。

5. 小型定置網漁獲量調査

魚種別銘柄別漁獲量の記録を依頼した。小型定置網（8ヶ統）は9月中旬から1月下旬まで設置され，漁獲量の大部分はサケであった。サケの盛漁期は11月下旬以降であり，10月下旬から11月上旬に魚群の交代が見られ，これは昨年比べ1～2旬遅れていた。